

【2018. 12. 19 日刊工業新聞（11面）】

日立ソリエイト AIで部品検査 工場・物流倉庫向け提供

【横浜】日立ソリューションズ・クリエイト（東京都世田谷区、西條洋社長、03・5780・6111）は、人工知能（AI）を活用し、自動画像認識で部品検査などを行う「検査・判定ソリューション」の提供を始めた。従来、人が目視で行っていた確認業務を、ディープラーニング（深層学習）で画像データを取り込んだAIで代替する。工業分野や倉庫関連といった製造業の工場や物流倉庫など、幅広い分野で利用を提案する。価格は個別見積り。2021年までに累計5億円の売り上げを見込む。

検査対象の特徴や判定調整する。画像を基にの精度も高められる。定の対象エリア、検査部品の刻印や欠陥などユーザーがソリューション項目、判定基準などはを判定するため、併用ソリューションの導入を検討する顧客の要望に合わせてするカメラを高性能な際、どついった用途システムなどで柔軟にものにすることで認識で活用するかを聞き取



油圧機器部品の刻印などをAIが自動認識する

る。AIに学ばせる画像データを数十枚から100枚程度用意し、簡易的な試験を行い、ソリューションを導入できるかどうかを判断する。

実際の運用状況に近い環境を整えて実証実験し、AIに取り込む画像を約1000枚撮影する。顧客が求める精度のAIに仕上げ、これと連携させるシステムの開発を進める。近年は製造業を中心に、AIやIoT（モノのインターネット）を使った作業効率の向上を図るニーズが高まっている。同社は同ソリューションの提供で、企業に対して目視

定の工程に働く人員の削減を促していく。

※本記事は、発行元の許可を得て掲載しております。